

笑顔を育む幼稚園



ほんとに... ★★★★☆



幼稚園教諭の

資格取得ルート

厚生省認定養成機関卒業

高等専修学校卒業

短大卒業
教育課程
2年

専門学校
教育課程
2年

大学院卒業
4年

大学院又年



19世紀前半に活動したドイツの幼稚園教育者リードヒル・フレーベルが1840年に設立して、小学校へ上がる前の児童のための学校が最初の幼稚園である。幼稚園という語は、1860年に学校の名前である「Kindergarten」(アルベールの選語)で使われた。

(アルベールの選語)子供の健(健康)の園(園)を翻訳してきました。

6コマンカ「笑顔」
Lot's Smile



先生の工夫、みーつけた!

1 笑顔

全20人の笑顔
～挨拶時に笑顔でいきなり、相手に対する笑顔を目指します～

2 小さなことを大事に捉め3

～小さなことを大切にすること～
～常に喜びを共有すること～
～笑顔で語り合いを待ち合になります～

3 言葉遣い

～子供達は悪い言葉をよく覚えてしまいます。だから、それいな言葉遣い～

～すこしことも大切なことをながめ～

～その他にも～

～ハキハキと大きな声で話す。

～危ないややけないことをしないで、との場で注意する。

～時計を音を出す時、長い針(長い針)と言ふ。

～子供達が話す。

～歌とピアノどちらも上手。

～かけっこはいいもの本校。

～給食のことは一人でも完食です。

～ありがとうございます。

編集後記

- 私は今回、幼稚園の職場体験を行って、たくさんの人々とお話しすることができました。子供達の質問には何でも答えるように心がけていました。子供達の質問には、なぜか行動しているときに笑顔がたり、うるさい大きな声でしゃべり話をすことの大変さを知りました。
- とがくありました。幼稚園の先輩方はたくさんの工夫をして子供達の成長を全力でサポートしていました。そんな姿を見習う。これから小さいうちはもう少し向かい合いたいと思います。そして毎日、常に、「笑顔」のエッセンスを入れることで周りを明るく、楽しく前向きにする秘訣です。
- だといふことが分りました。私もこれまでのことは常に笑顔でいる。しかし、笑顔は常に生きていなくてはなりません。意識して生活していくのです。Thank you
- たくさんのことを見てきました。ありがとうございました。

出東市立第三中学校 3年6組 松浦 宮室
発行日 平成30年 10月1日

教育とは?

教育とは、教え育むことであり、あら人間を望ましい状態にさせられ、ハレホの両面に、意図的に働きかけることである。
教育は受け取る知識を理解したり、技能を身につけてせしめ人間性を養うりしつ、その人が持つ能力をひきだすことをことである。

四絆幼稚園の教育

～教育目標～

「自分らしく發揮し、ハレがてくましく生活していく幼稚園の育成」
～めざす幼稚園へ笑顔と樂しういほの幼稚園の明るく、樂しく活気(溌溂)あふぎの幼稚園の穏やか、即ちありのまじ会(向こまじの幼稚園)の音楽や絵本の小かわいを楽しめ、情操豊かさが多くの幼稚園

幼稚園と保育園の違い

幼稚園

保育園

幼児期(4歳)～適当 日々の実践者の運営
公立・私立どちらをも受け受け、児童見さんは心身の発達と成長を促進し、保護者を尊重する。

保育園児 3歳(4歳)～(6歳)の小 0歳(1歳)～小学校入学 幼児教育課程の期間の間に限りの、0歳(1歳)～小学校入学

保育料 公立(在園者)が設定 自治会(在園者)が保育料の公募(自ら保育料)で決定所得状況に応じて決定

給食の有無 在園 兼務 先生が必ず説明書提出 保育工賃証明書提出

所管 大部科学生 厚生省労働省 税法令 子育教育法 健康福祉法

～幼稚園と保育園の違い～

幼稚園教諭の 人間関係

幼稚園教諭と子どもの関係

幼稚園教諭は、子どもには昔平等に接しなくてはなりません。しかし、理屈では分かりていて、なかなか思う立場でございませんこともあります。子どもの個性は一人ひとり異なるので、面倒見をするに大変なことも多いですが、しかしとても手の届かない子どもたちで困る事はまだないほどまだちからを差し方に差をつけてしまうから、子ども達はどのようなことを敏感に感じたり、ハサハサを負うのでしょうか? それがいいわけではありません。離いじかねる必要があります。

幼稚園教諭と保護者の関係

保護者との関係が一番難しいものになると多くもしません。保護者は、日々の暮らしの中でこの環境をもろに交換することが大切です。細かくどこでもちんまり連絡を取り合うことで、保護者からのお問い合わせは増えています。特に、保護者との間接関係が築けない場合、小さなトラブルが大きなトラブルとして発展してしまうことがあります。親、先生が笑に子供の成長喜んで、またトラブルが起きた時は、親の責任でせよ子供の成長を喜んで貰ふことを思って、先生が笑に子供の成長喜んで、またトラブルが起きた時は、親の責任でせよ子供の成長を喜んで貰ふことを思って、親もボッとなります。